

平成30年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	善光寺巡礼の道プロジェクトー元善光寺から善光寺まで160kmの歩き旅へー
事業主体 (連絡先)	NPO 法人善光寺街道歩き旅推進局
事業区分	(6) 産業振興、雇用拡大に関する事業 ア 特色ある観光地づくり
事業タイプ	ソフト
総事業費	3,404,937円 (うち支援金: 2,508,000円)

事業内容

飯田市元善光寺から長野市善光寺までの近世の街道を「善光寺巡礼の道」と称して、歩く道としての復興に取り組んだ。この道の日本遺産認定を目標に、古道研究の第一人者田中欣一氏の講演会や元善光寺と善光寺僧侶ならびに歴史に関する専門家7名によるパネルディスカッションを開催した。この間、信濃毎日新聞での広報活動と沿線地域の交流を重ねた。また善光寺が極楽往生の聖地であったことから、「地獄極楽」をテーマに冊子をまとめ、関係機関に配布した。

- ・講演会開催; 6/23 麻績村地域交流センター 150名
- ・パネルディスカッション開催; 10/31 松本市キッセイ文化ホール 100名
- ・伊那街道沿線地域の交流; 飯田市～塩尻市4回 62名
- ・信濃毎日新聞広告; 6～11月6回掲載
- ・沿線地域の交流; 8～9月4回開催

事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

- 長野県内における周知
講演会とパネルディスカッションの開催により約250人に「善光寺巡礼の道」のアピールができた。同時に長野県内の世帯の半数が購読する新聞紙面の広報も多くの県民の目に触れるところとなった。
- 街道沿線への周知
16市町村の教育委員会をはじめ伊那街道沿線の16団体と交流し、「善光寺巡礼の道」への理解が広がった。
- 巡礼道復興の視点から新たな文化財群活用の方向性を示す事ができた。また、「絵解き」復興や「善光寺の世界遺産」など異団体との連携がとれた。

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

飯田線(JR東海)や篠ノ井線(JR東日本)は街道へのアクセスとして重要な要素であり、街道歩きとコラボレーションすることで観光への活路を見出したい。今後「善光寺巡礼の道」事業の進捗に合わせて鉄道会社への協力を要請する。



【パネルディスカッション「目指せ日本遺産！善光寺巡礼の道」】

【目標・ねらい】

- ①「善光寺巡礼の道」運動の周知
- ②広域にわたる文化財群の活用
- ③新しい旅行形態としての「歩き旅」の啓発
- ④地域連帯型活性化運動の推進

※自己評価【B】

【理由】

関係自治体や沿線住民への最低限の周知はできた。また、善光寺と元善光寺との信頼を得て連携できたことは大きい。

街道を活用した地域おこしは全県的な可能性を持つと考えるが、今回は「歩き旅」の啓発までは至らず、地域外からの関心を喚起できなかった。

(別記様式第12号) (第3の8関係)

- ※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。
「A」：予定を上回る効果が得られた 「B」：予定していた効果が得られた
「C」：一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある